

プレス・リリース

陶磁ネットワーク会議共同企画展

やきものって何ダ？

(キャッチコピー)

使って楽し、見て楽し！ 陶芸五千年

A Japan Ceramics Network joint exhibition

What is Pottery ?

平成27年1月2日（金）～3月8日（日）



加藤土師萌
「吹墨色絵水禽文大皿」
1963
愛知県陶磁美術館



初代 宮川香山
「浮彫蓮子白鷺翡翠図花瓶」
19世紀（明治時代前期）
岐阜県現代陶芸美術館



越前
「三筋文壺」
12世紀（平安時代末期）
福井県陶芸館



三輪壽雪
「鬼萩窯変割高台茶碗」
2006
山口県立萩美術館・浦上記念館



富本憲吉
「色絵金銀彩四弁花模様蓋付飾壺」
1956
兵庫陶芸美術館



板谷 波山「彩磁八ツ手葉文鉢」20世紀（大正時代初期）
茨城県陶芸美術館



有田（柿右衛門様式）
「色絵花鳥文六角壺（1対）」
17世紀後半（江戸時代前期）
佐賀県立九州陶磁文化館



リチャード・ショー
「ベースボール・ヘッド」
1998
滋賀県立陶芸の森 陶芸館

※ プレスリリース用の
写真データ
広報担当のE-Mail アドレ
スまで連絡いただければ、
すぐにデータをお送りいた
します。なお、写真を掲載
する際には、下記の作品キ
ャプションを必ず併記して
ください。

茨城県陶芸美術館

IBARAKI CERAMIC ART MUSEUM

〒309-1611 茨城県笠間市笠間2345番地（笠間芸術の森公園内）

TEL 0296-70-0011 / FAX 0296-70-0012

<http://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/>

- 1 展覧会名**
陶磁ネットワーク会議共同企画展
やきものって何ダ？
キャッチコピー：使って楽し、見て楽し！ 陶芸五千年
英名：A Japan Ceramics Network joint exhibition **What is Pottery？**
- 2 開催趣旨**
A：短くいうと（158字）
本展では、「陶磁ネットワーク会議」加盟8館の所蔵品から約130点を厳選すると共に6つのテーマを設定し、縄文時代から現代までの五千年にわたる陶芸作品を紹介します。日本各地のやきもの美術館を旅した気分になりつつ、やきもの魅力を堪能していただき、みなさんのやきものに対する「なぜ？ なに？」に少しでも答えられれば幸いです。
B：もう少し丁寧にいうと（338字）
日本には数多くのやきものの産地があります。これらの産地では、土地ごとに特徴のあるやきものが作られ、食のための器だけでなく、茶の湯など日本を代表する伝統文化の形成にも大きな役割を果たしてきました。また現代では、器という枠を超えて、やきものによる新たな造形表現が生まれています。
本展では、国内のやきものを専門とする美術館・博物館が加盟する「陶磁ネットワーク会議」8館の所蔵品から約130点を厳選すると共に6つのテーマを設定し、紀元前3,000年頃に制作された縄文式土器から現代の作品までの五千年にわたる陶芸作品を紹介します。日本各地のやきもの美術館を旅した気分になりつつ、やきもの魅力を堪能していただき、みなさんのやきものに対する「なぜ？ なに？」に少しでも答えられれば幸いです。
C：詳細にいうと（449字）
日本には数多くのやきものの産地があります。これらの産地では、土地ごとに特徴のあるやきものが作られ、食のための器だけでなく、茶の湯など日本を代表する伝統文化の形成にも大きな役割を果たしてきました。また現代では、器という枠を超えて、やきものによる新たな造形表現が生まれています。
そこでこのたび、国内のやきものの産地である有田、萩、丹波、信楽、越前、美濃、瀬戸、笠間においてやきものを専門的に収蔵し展示・公開する美術館・博物館8館による共同企画展「やきものって何ダ？」を開催します。
本展では、この8館の所蔵品から約130点を厳選し、やきものがどのように作られ、どのように使われてきたのか、そしてやきもので何を表現してきたのかなど6つのテーマを設定し、紀元前3,000年頃に制作された縄文式土器から現代の作品までの五千年にわたる陶芸作品を紹介します。日本各地のやきもの美術館を旅した気分になりつつ、やきもの魅力を堪能していただき、みなさんのやきものに対する「なぜ？ なに？」に少しでも答えられれば幸いです。
- 3 展示構成**
(1) やきものを作る (2) やきもので保存・調理する (3) やきもので茶を楽しむ
(4) やきもので食を楽しむ (5) 「うつわ」でありながら (6) 「うつわ」じゃなくても
 陶磁ネットワーク会議加盟館 各館の逸品
- 4 主催等**
主 催：茨城県陶芸美術館
企画協力：陶磁ネットワーク会議（愛知県陶磁美術館、茨城県陶芸美術館、岐阜県現代陶芸美術館、佐賀県立九州陶磁文化館、滋賀県立陶芸の森、兵庫陶芸美術館、福井県陶芸館、山口県立萩美術館・浦上記念館）
後 援：笠間市、朝日新聞水戸総局、茨城新聞社、NHK水戸放送局、産経新聞社水戸支局、毎日新聞水戸支局、読売新聞水戸支局
- 5 会期等**
会 期：平成27年1月2日（金）から3月8日（日）まで [57日間]
会 場：茨城県陶芸美術館 企画展示室（地階）
開館時間：午前9時30分から午後5時まで（入場は午後4時30分まで）
休 館 日：月曜日 [ただし、1月12日（月・祝）は開館 / 1月13日（火）は休館]
- 6 観覧料**
一般 720(570)円 / 高大生 510(410)円 / 小中生 260(210)円
※（ ）内は20名以上の団体料金
※ 満70歳以上の方、障害者手帳、療育手帳をお持ちの方及び付き添いの方（ただし1人につき1人まで）は無料
※ 冬期休業期間を除く土曜日は高校生以下無料
- 7 関連行事** ※詳細は後日、チラシやホームページ等にてお知らせします。
(1) 美術講演会「やきものって何ダ？！ -その答えは？何ダ展の魅力」
日 時：平成27年1月31日（土）午後1時30分～3時
講 師：徳留大輔氏（山口県立萩美術館・浦上記念館 主任学芸員）
会 場：当館1階多目的ホール（聴講無料）
定 員：120名（先着順）
(2) ワークショップ「くらしを楽しむ 陶の小物づくりに挑戦！ -石膏型でつくる-」
日 時：平成27年2月7日（土）午前10時～午後3時30分
講 師：鷲野谷昇氏（元茨城県工業技術センター窯業指導所長）
久野亘央氏（茨城県工業技術センター窯業指導所 工芸技術部門 主任研究員）
会 場：当館及び茨城県工業技術センター窯業指導所
定 員：20名 [高校生以上] 往復ハガキによる申込抽選制
参加費：材料費の一部として200円、また企画展チケットが必要です。
(3) 映画+講演+タッチ&トーク「何ダ？展 クローズアップ・備前」
日 時：平成27年2月14日（土）午後1時30分～3時30分
共同主催：ポーラ伝統文化振興財団
(4) ギャラリートーク ※企画展チケットが必要です。
担当学芸員が展覧会をご案内します。
平成27年2月11日（水・祝）、21日（土）各午後1時30分～
- 8 連絡先**
茨城県陶芸美術館 〒309-1611 茨城県笠間市笠間2345番地（笠間芸術の森公園内）
TEL 0296-70-0011 / FAX 0296-70-0012
展覧会担当 学 芸 課 武石 洋（たけいし ひろし）
E-Mail takeisi.hirosi@mail.ibk.ed.jp
広報担当 企画管理課 中島 淳（なかじま あつし）
E-Mail kouhou@tougei.museum.ibk.ed.jp